

花のお江戸を歩く会

江戸のだ真ん中：お正月散歩

「日本橋七福神＋銀座八丁神社」めぐり

緊急連絡＝070-5019-4033

＜散歩道のご案内＞

この場所は、徳川家康が江戸入府後、近い将来自らが天下人になった時の「商人地」として日比谷入り江をいち早く埋め立てたところです。今でも日本一の商業地として栄え続ける銀座・日本橋です。江戸時代はこの地に京・大坂から大店の江戸店が立ち並び、花街「元吉原」や江戸歌舞伎の櫓が立ち並んだ華やかな江戸のスポットでした。往時の江戸の香りを残す日本橋七福神の古社や銀座八丁のビルの谷間に佇む神社巡りを楽しみます。

＜散歩の順路＞

小伝馬町駅→【日本橋七福神巡りスタート】①宝田恵比寿神社（恵比寿神）→②梶森神社（恵比寿神）→出世稲荷（元吉原誕生起源）→玄治店跡→人形町末広跡→大門通（元吉原ゆかり）→加茂真淵旧居跡→明治座→③水天宮（弁財天：仮設）→④笠間稲荷神社（寿老神）→⑤末広神社（毘沙門天：元吉原ゆかり）→⑥松島神社（大黒天）→⑦茶ノ木神社（布袋尊）→⑧小網神社（福祿寿）→日本橋（ランチ）→【京橋へ移動：銀座八丁神社巡りスタート】幸稲荷神社→龍光不動尊（銀座松屋）→朝日稲荷神社→宝童稲荷神社→銀座出世地蔵尊（銀座三越）→あずま稲荷神社（三原小路）→八官神社（宝くじ注目スポット）→豊岩稲荷神社→銀座通り東京メトロ銀座駅（解散）

＜個別ガイド＞

★小伝馬町駅→【日本橋七福神巡りスタート】

① 宝田恵比寿神社(恵比寿神)

元々は皇居前にあった宝田村の鎮守様です。運慶あるいは左甚五郎の作とも伝えられる祭壇中央の見事な「恵比寿神」像は必見です。慶長11年(1606年)三伝馬取締役・馬込勘解由が徳川家康からこれを受けたと伝えられています。恒例の「べったら市」は、“べったり運がつく”と元禄時代から人気です。余談ですが勘解由(かげゆ)の娘は「まりあ(お雪)」という名で、ご主人は徳川家康に仕えた三浦按針、すなわちイギリス人ウィリアム・アダムスです。

② 梶森神社(恵比寿神)

創建は約1千年前。田原藤太秀郷の平将門の討伐祈願や、太田道灌の雨乞い祈願などの記録も残る古社です。祀られている恵比寿様は、右手に釣竿、左手に鯛を持ち、はじめは豊漁の神さまとして、後に「えびす顔」と言うとおり商売繁盛の神さまへと変化しました。

江戸時代には神田・柳森神社、新橋・烏森神社などと共に「江戸三森」として信仰されました。10月の恵比寿神大祭は毎年大いに盛り上がっています。

③ 出世稲荷(元吉原誕生起源)

北条家浪人庄司甚右衛門他数名の仮屋敷内に元和3年(1617)創建したと伝えられ、江戸時代初代市川団十郎が日参し名をあげたことから出世稲荷神社と称されるようになったという。現在の本殿は、関東大震災後に相森神社の旧拝殿の廃材を再利用して建立したといい、岩代稲荷神社も合祀されている。庄司甚左衛門は、江戸初期に仮屋敷に近い人形町一帯に幕府の許可を得て「元吉原」を設置したと伝えがある。→玄治店跡→人形町末広跡→大門通(元吉原ゆかり)→明治座

④ 笠間稲荷神社(寿老神)

江戸末期安政6年(1859年)、笠間藩主・牧野貞直が、日本3大稲荷のひとつ常陸笠間神社の御分霊を江戸下屋敷に奉斎。以降、五穀をはじめ水産、殖産の守護神として信仰を集めました。寿老人は長寿の神にして、お導きの神、幸運の神として、人々の運命を開拓して下さる福德長寿の守護神とされています。

⑤ 水天宮(弁財天:仮設)・・・4月以降元の場所に戻ります

安産・子授のお宮として超有名な水天宮。その成り立ちは、九州久留米藩の有馬公が文政元年(1818年)久留米から分霊して屋敷内にお祀りしたのが始まりです。毎月5日に限り町民にも参拝が許され、当時から多くの人々に親しまれてきた日本橋七福神を代表するお社です。

お像は運慶作と伝えられる「弁財天」がまつられています。水天宮の弁財天は「中央辨財天」と呼ばれ手に琵琶を持たず剣や矢を持つ勇ましい姿。これは人の弱い心を正し導く慈悲の姿といわれています。屋敷内社として、火風の神、鎮火の神、雨の神また、芸能・弁論・貨殖への靈験があらたかな神様です。有馬頼徳公も願掛けして、能楽のライバル加賀の前田公に勝利した、という逸話が残っています。

⑥ 末広神社(毘沙門天:元吉原ゆかり)

この辺りは元和3年(1617年)に幕府の許可の下、庄司甚右衛門らが葎(よし)の茂る沼沢地を開拓して造った遊女町葎(よし)原(吉原)で、末廣神社はその氏神様として信仰を集めていました。ここに祀られているのは毘沙門様。多聞天の異名を持つ毘沙門天は、世界の守護神であり、又、福德を授ける神ともされています。また日本独自の信仰として七福神の一尊とされ、特に勝負事に利益ありとして崇められています。

⑦ 松島神社(大黒天)

鎌倉時代前に、この辺りが入り海であった頃、松の木が鬱蒼と生えた小島に柴田家の邸内社として祭られてあったが、天正十三年(1585年)松島稲荷大明神として一般に公開参拝の自由が許され、大正五年六月十日松島神社と改称される。

明暦の大火(1657年)以前、周囲は歓楽街で人形細工職人、呉服商人、歌舞伎役者、葎(よし)町の芸妓傾城等々、芸能関係や庶民の参拝によりたいへん賑わいました。祀られて

いる大国神は、密教の大黒天が元になり、大国主命と神仏習合して出来た神道の神で、破壊と豊穰の神として信仰されました。現在は豊穰の面が残り、大黒様として親しまれています。11月の酉の市が往時を伝える風物詩として今に遺っています。

⑧ 茶/木神社(布袋尊)

かつて社の周りで、見事に生い茂っていた茶の木がその名の由来です。下総（千葉県）佐倉藩主堀田家の屋敷神として布袋神が祀られています。笑顔が優しい布袋様は、福徳円満と防災の神様として知られています。また、この屋敷内はもとより、町方にも火災が無かったことから、火伏せの神としても信仰を集めています。

⑨ 小網神社(福祿寿)

稲荷大神を主祭とし、540年前(文政元年1466年)に鎮座した歴史の古いお社。「福祿寿」と「弁財天」が祀られています。総尾州檜造りの重厚な彫刻が施された社殿と神楽殿は、中央区指定文化財。5月の大祭では神社大御輿で賑います。また、11月末の「どぶろく祭り」は奇祭として特に有名です。なお、「福祿寿」は福徳長寿の神、また「弁財天」は商売繁盛、学芸成就の神として親しまれています。→江戸橋→日本橋(ランチ)→京橋へ移動：

銀座八丁神社巡りスタート

⑩ 幸稲荷神社

江戸時代から続く神社で京都伏見稲荷大社より勧請してお祀りしております。「商売繁昌・家内繁昌・縁結び・病気平癒」にご利益がある神社と参詣される方々が多くいます。つい最近まで角地の「ニューヨーカー」の土地にあったが、開発で隣接の現在地に遷座した。

⑪ 龍光不動尊(銀座松屋)

高野山龍り松屋にお迎えした、龍光不動明王を奉る「龍光不動尊」。昭和4年以来お客様ならびに松屋の鎮護のため屋上に安置されています。社殿は平安神宮・神田明神などの設計を行った青池安太郎の作。「龍光」は「流行」に通じるということで、ファッション関係の祈願にも霊験あらたかだと言われています。

鎌倉時代の名匠による高野山龍光院より遷座してお迎えしました。お参りの方には障りを幸に転じ、願望成就・家内円満・商売繁昌といわれています。

⑫ 朝日稲荷神社

「商売繁昌・家内安全・開運・火難・厄除・望願」に靈感あらたかな神社として、町内だけでなく、全国からも参詣される方も多くいます。二月の二の牛の祭事も盛大に行われています。

⑬ 宝童稲荷神社

その昔は江戸城内にあって、将軍の子息が次々と早死することを防ぐために祀られた神社で、これを勧請して当地に鎮座したとされます。健やかな子どもの成育にご利益があると伝える子育て稲荷です。

⑭ 銀座出世地藏尊（銀座三越）

三十間堀川の開削中に地中から地藏菩薩の石造が発掘されて「世に出た」ことが出世地藏の由来です。ご利益は祈願して成就せざるはなしといわれています。

⑮ あずま稲荷神社（三原小路）

戦後、京都伏見稲荷大社より分霊してお祀りした神社です。以前は、たびたび起こっていた小火・火災が、お祀りして以後は不思議と無くなったといわれます。

⑯ 豊岩稲荷神社

明智光秀の家臣安田作兵衛の奉斎により祀られたそうで、歌舞伎役者市村羽左衛門からの崇敬もあつかったといえます。銀座7丁目のビルの間の路地奥にあり、防火と縁結びの神社として女性の参拝者が多いところす。

⑰ 八官神社（宝くじ注目スポット）

銀座8丁目のビル1階の一角にひっそりと佇む神社。もともとは、八官町と呼ばれたこのエリアの氏神で「穀豊稲荷」として親しまれていたが、区画整理で町名がなくなること嫌った町民が八官神社と改称して町名を残したことが名前の由来。焼失や移転などを経て、現在のビルに納まったとされる。商売繁盛、金運アップのご利益があるとされ、宝くじファンにはおなじみの神社。宝くじの購入前に訪れる人や、出勤前に立ち寄るクラブのママも多いそうだ。（解散：JR新橋駅又は東京メトロ「銀座駅」）